

<山形聾学校の実践について>

レポートタイトル「木材加工技術を生かした社会に役立つ製品作り」

1 実践にあたって

本校高等部生産技術科（専攻科）では、工業系の教科を中心にして生産技術に関する専門的な知識と技術を学び、社会自立できる力を育てている。

教育課程は、実習を11単位設定し、就業に必要な態度と行動を身に付けることができるようにしている。この実践は、総合実習（3単位）で行った取り組みである。

2 活動より

(1) 万国旗巻き取り装置の製作

運動会で使用する万国旗の設置や収納に毎年苦勞していることを生産技術科の生徒が聞いて、設計と製作を請け負った。木工製品であるが、機械的要素も取り入れたもので、これまでにないアイデアである。



巻き取り枠と台車



セットした状態



巻き取った状態

(2) 寄宿舎の新聞入れの製作

本校寄宿舎に新聞受けがなく困っていたが、生活に役立つ製品作りの一環として製作の依頼を受けた。依頼を受けた生徒は寄宿舎の担当者と何回も打ち合わせを行い設計図を完成した。デザインの優れた、使いやすいものに仕上げることができた。寄宿舎からは大変感謝されている。



3 まとめ

今回の取り組みで、これまで生徒が学んだ木工技術が社会に役立つことと他の人から感謝されることを経験することができた。この経験は生徒の学ぶ意欲を高め、社会に貢献できたという自信になっている。

<山形養護学校の実践について>

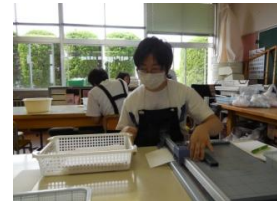
レポートタイトル「生徒一人一人の力を合わせたメモ帳作り～重複障がい学級作業学習～」

1 実践にあたって

高等部重複障がい学級では、作業学習を週3日行っている。ロータリーカッターは、車いすの生徒も楽に作業できるように、分業には欠かせない道具である。7名の生徒がそれぞれ活躍でき、能率が上がることをねらい、ローラークッターを1台追加して、バザーに向けてのメモ帳作りを行った。



車いすの生徒や片麻痺の生徒も協力して裁断の仕事をおこなっている。



裁断した用紙にスタンプを押し、のり付けプレスを分業。担当した生徒が販売を行った。

2 活動より

今回、カッターが1台増えたことで、より充実した協働の場を設定することができ、生徒の働く力に結びつけることができた。本校の重複障がい学級では、進路先の事業所に適応できるように、集団での作業学習を教育課程のメインにしている。生徒の障がいや年々重度化、多様化してきている中、協働で物作りができる力をつけるためにローラークッターなどの各種の道具の充実や、指導の工夫は重要である。